

# 公益社団法人日本口腔インプラント学会は 第 51 回学術大会において以下を宣言します

公益社団法人日本口腔インプラント学会 理事長 宮崎 隆  
第 51回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 大会長 津賀一弘

## これからの50年：インプラントで支える未来の健康

### 広島宣言

超高齢社会の我が国で健康長寿を推進するには、口腔機能の維持、向上が絶対的に必要とされています。インプラント治療は、多くの研究と臨床エビデンスから口腔機能回復が可能な優れた治療方法であることが証明されています。全身の健康に特に関わりの深いメタボリックやロコモティブシンドロームの改善、高齢者のフレイル予防でも、しっかり咀嚼してバランスの取れた栄養を摂取することが求められています。インプラントによる咀嚼機能の回復によってメタボ、ロコモ、フレイルが予防、改善され、健康長寿の推進に大きく貢献することが期待されます。

さらにインプラント治療が普及すると、良好な咀嚼機能がフードロスの減少や穀物需給の改善をもたらし、国連の持続可能な発展目標 SDGs 達成に貢献できる可能性があります。

一方でインプラント治療による審美性の改善は、人々の表情を明るくし、心の健康増進にも繋がります。医学・医療全体の中で、生活の質（QOL）に最も配慮の進んでいるのがインプラント治療です。

コロナ感染拡大のため平和都市広島への参集は叶いませんが、第 51 回大会を通じて、私たちはインプラントの研究と診療が未来の医療、世界中の健康増進に繋がることを宣言します。